

## 全国保育実践交流会ニュース

九州地区 2020年3月発行

九州地区は今年度も年齢別交流、一日交流、交流合宿、全体学習会を行いました。そして昨年11月、全国実践交流会秋の全国研修会を熊本・水俣で開催し、全国から遠く熊本までたくさんの方に参加して頂きました。

また、地元九州からは多くの職員が参加する事が出来ました。しかしこれまで水俣を訪れた事のある職員はほとんどなく、全国の仲間と共に貴重な学びとなりました。

現地実行委員会の中心で準備を進めてくれたのは熊本市の二の丸保育園で、前園長相澤さんの力も借りての集会でした。

秋の全国研の取り組みと、九州の活動をご報告します。

### 秋の全国研修会を取り組んで

二の丸保育園 園長 富田秀代



「秋の全国研、熊本集会」の学びは、2019年8月「第36回ミナマタ現地調査in鹿児島、長崎」から始まりました。現地実行委員として初めて水俣に行き、弁護団の説明や、集会での原告団の訴えなど、これまで私達がテレビや新聞等で知らされたものとは違い、改めて水俣病の闘いは終わっていない事を実感した2日間でした。

この事を全国から参加する保育士たちに、学びの場としてどのような内容にしたらよいか、これまでの闘いを支えて来られた方や、民主医療連合会の知恵と力を借りながら作り上げた集会でした。

### 現地実行委員として

二の丸保育園 前園長 相澤幸代

2019年母親大会熊本集会での板井先生の話聞いたあと、私はCD『海、山、空の子守歌』を聞きながら、著書『胎児との約束』の一節一節を思い出していました。我が子を早産し7日目に亡くした経験があり、先生の語りや、「母の体に刻まれた命の記憶を」のところで胸が痛くなります。ずっと忘れることのない命、私は子どもに申し訳なくて自分を責めました。水俣の母たちは一人二人、なんと10人の命の記憶を語ってくれた人もいたということです。

「水俣病」とわかると、差別、偏見の目にさらされる。そんな時でも協立病院の先生たちには全てを話せる。スタッフを信頼する母たちの気持ちにもなりました。

事実を知りなら排水を流し続けた工場に、国に、その辛い悲しい気持ちを、怒りをぶつける闘いのエネルギーに変えていった母たち。共にいたスタッフの皆さんの調査活動をやり続けた思いの

深さに感動しました。生まれえなかった命、二度とあってはならない。

板井先生にこの話をしたところ、研修会当日はCDを流す予定だったのですが、有難いことに、歌を歌いにワルツさんも駆けつけてくださったのです。

私は退職をして、久しぶりに九州の仲間たちと現地実行委員として会の準備に携わりました。民医連に協力要請に行くと、「自分たちは全国行脚をして訴えたいところなのに全国から集まってくくださるとは…全面協力させてください」との力強い言葉を頂きました。そして、高取保育園前理事長北岡ご夫妻、民医連の原田さん、早川さんには何度も話し合いに来ていただき、現地へも行ってくださいました。

「学びがしやすいように」と悩む私達に、北岡恭子さんは、「難しい時代になりましたが、足元からしっかり学び合い、信頼し合い、日常に向き合っていかなければならないのですね。現地は大変だけど、それだけの学びと財産は残ると思います」「私達は見えないものを見えるようにするために学ぶ」と励ましてくださいました。

バス7台に乗るスタッフ会議も重ねられました。実は当日デビューの若い弁護士、スタッフさんもいたのです。当日、患者会の訴えを終えた山本さんは「会場の皆さんの雰囲気にもまれて、久しぶりに自分の思いがこみ上げてきて、声をつまらせてしまいました。」と言い残して帰られました。

九州の仲間は、竹の楽器作りから演奏まで、バンブーオーケストラの方の協力のもと、歓迎の気持ちをこめ頑張りました。

秋の全国研修会を現地とそこに関わってくださった沢山の皆さんと、全国代表委員の皆さんの協力のもとに毎年行われていることも凄いことだと思います。

開催までの取り組み、日程決めから会場選び、講師の先生との連絡など、とても良い経験となりました。全国から感想や署名を送って頂くたびに、また感謝です。九州の仲間と実行委員としての1年、有意義でほんとに楽しかったです。平和で、豊かな未来を築くためにこれからも共に学び合いましょう。



1部 リズムと歌 2部 「クロワッサンサーカス」公演

九州地区「卒園を祝う会」を終えて (2月23日開催)

コロナウイルスの感染が拡がりはじめた頃ではありましたが、参加人数の縮小、消毒剤の設置、昼食の弁当は近くの公園に分散してとるなど、会としてできるだけの対応をして行いました。

138人の元気な歌声やリズム遊びのしなやかな動きに成長を感じながら、当日各園から集まった参加者で、卒園を祝いました。

初めて年長の担任を経験し、関西の秋の合宿にも参加した二人の職員の感想をご紹介します。

あゆみの森共同保育園 星野いづみ

初めて年長担任をする私が、6月に初めての合宿へ参加した時の緊張と不安と楽しみが入り交じった気持ちが、つい最近のように感じます。

子どもたちの合宿へ向かう姿も随分変わりました。前半の合宿では親元を離れ不安で涙する姿もありましたが、運動会を終えた頃から「早く〇〇保育園の仲間に会いたい」「広い体育館のリズムが楽しみ」と前向きな姿へと変わっていきました。後半になると新しいリズムが楽しみで、どんどん挑戦していく仲間の姿に「自分もやってみよう」と一歩踏み出す姿が増えました。それは子どもの育ちのために、大人たちの支えと、仲間の存在があったからです。

最後の合宿では「素敵になりたい」ことへ向かう気持ちがぐっと膨らみ、子どもたちが仲間と励まし合い、認め合う姿に私は感激しました。私自身緊張もした「祝う会」でしたが、それ以上に楽しさとドキドキワクワクを子どもたちと共有できたことが何よりの宝です。秋には関西の合宿にも参加させていただきました。この1年間子どもたちを取り巻く環境と「集団の力」が子どもの育ちにどれだけ大切なのかを学ぶ経験となりました。

また、コロナ感染拡大の中、「祝う会」が無事に開催できたことを心より感謝しています。



高取保育園 猿渡結実

怒涛の一年で、振り返ってみると子どもたちと同じようにワクワクしながら合宿の準備をしたり、ドキドキしながら新しい課題に挑戦したり、心から楽しい！とみんなで大笑いしたり・・・

"年長担任に対しての不安や心配もあったけど、それを忘れるくらい子どもたちと一緒に全力で駆け抜けて一緒に成長できた一年でした。

朝からボーツとしていたり顔色が悪かったりする子が、合宿中日に日に体の気持ち悪さが抜け、スッキリした顔になり、自分の持っている力を目一杯発揮している姿を目のあたりにして、この交流に参加できる子どもたちとても幸せだなと思います。

私も大勢の仲間の中で揉まれる中で、人前で自分の意見を言うのに躊躇し、悔しい思いをしたり、緊張して自分の力を発揮できなかった事もありました。子どもたちと同じ立場に立って身を持って経験すると、今まで自分は多くの事を求めすぎようとしていたのかなと反省することもありました。

"高いとび箱がとべること、友だちがたくさんできる事、リズムがステキにできる事。がこの交流のゴールではないような気がします。

一年が終わり、以前の自分より少しだけ子どもの目線に近づき、共感できる保育士になれたのではと思います。私自身も育ててもらった一年でした。



久住合宿 久住登山



雪遊び 宮崎県五ヶ瀬